

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター

活動レポート2021-2022



【ロゴの紹介】

青色は「学び」、黄色は「活動」、森や自然を想起する緑色は「持続可能な社会」を象徴しています。ESDの文字で卵から雛が生まれる様子を表現し、青色と黄色を混ぜると緑色が生じるという「色の原理」も織り込んで、「人びとの学びと活動によって持続可能な社会を生み出し、育てる」というESDの考え方を表しています。

*上記「ESDロゴマーク」は、環境大臣によって商標登録されています。



ESDはEducation for Sustainable Development の頭文字。
持続可能な開発のための教育と訳され
全国各地の学校で、地域で、取り組まれています。
ESDはSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けての人づくりです。

2021(令和3)年度環境省請負業務

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター 活動レポート2021-2022

発行日 2022(令和4)年3月
制作 ESD活動支援センター



2021年度の活動を振り返って

本報告書は、ESD活動支援センターの2021年度の活動記録を取りまとめたものです。新型コロナウイルス感染症の流行は、拡大／収束の波を繰り返しながら現在も続いています。働き方やライフスタイルが大きく変化する中で、ESD推進ネットワークを形成する支援センターや地域拠点の活動もオンライン中心にシフトしてきました。ESD推進ネットワークの今年度の取組や動向の主なポイントは以下の通りです。

●第2期ESD国内実施計画の策定

2030年に向けたESD推進の国際的な枠組み「持続可能な開発のための教育:SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」を踏まえ、国内でESDを推進していくための計画が2021年5月に策定されました。新たな計画においてはESDがSDGsの達成にコミットメントしていくことが明記されるとともに、ステークホルダー間のパートナーシップ促進が掲げられました。ESD推進ネットワーク自身の発展・強化に加え、他の領域で育ってきたネットワークと積極的につながっていくことが期待されています。

●「ESD for 2030学び合いプロジェクト」の開始

ESDの全国的な展開、支援体制の充実、様々な主体によるESD活動の高度化と多様な連携を推進するために、第2期ESD国内実施計画に記載された「テーマ別の学び合いの仕組み」として「ESD for 2030学び合いプロジェクト」が新たにスタートしました。今年度は全国8カ所の地方ESD活動支援センターがそれぞれテーマを設定し、多様な主体が地域を越えて参加する学び合いを実践しました。(→10,11ページ)

●新型コロナウイルス感染症による影響を受ける中での活動・取組の進化

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、多くのイベントや会合がオンラインで実施されるようになりました。参加者がこうした状況に適応するのに合わせ、講演や発表などの一方通行的なものだけでなく、少人数でのディスカッションやデジタルツールを活用したグループワークといった双方向のコミュニケーションが積極的に取り入れられるなど、開催方法も進化してきています。

●脱炭素社会に向けた取組の加速化

2050年カーボンニュートラル、2030年度の温室効果ガス2013年度比46%削減に向けて、2021年6月に「地域脱炭素ロードマップ」が策定されました。再生可能エネルギーの最大限の導入、住宅・建築物の省エネ等、地域において様々な施策が導入される中で、住民一人ひとりが主体となりライフスタイルの転換を進めるために、脱炭素意識の醸成と行動変容を促すESDの役割はますます重要になってきています。

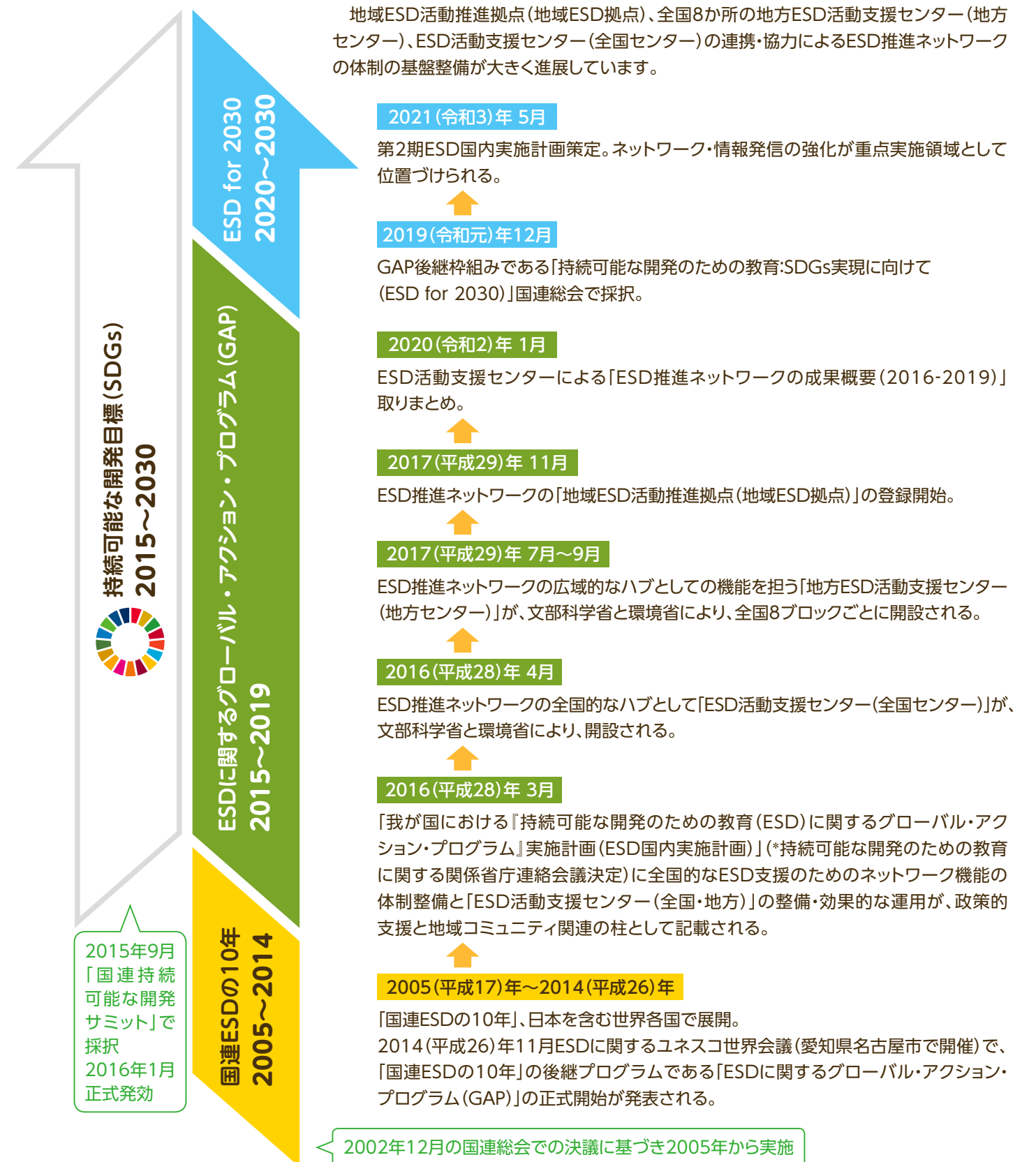
目次

2021年度の活動を振り返って	2	ESD活動支援センター(全国センター)の役割	8
ESD推進ネットワーク形成の進展	3	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021	10
SDGs達成を目指すESD推進ネットワーク	4	ESD for 2030 学び合いプロジェクト	14
地域ESD活動推進拠点	6	ESD活動支援センター(全国・地方)連絡先	15

本レポートの表記・内容について：原則2022年2月末時点の情報に基づいています。／肩書きはイベント等開催当時のものです。／「特定非営利活動法人」は「NPO法人」または「NPO」と略記しています。／円グラフの%の合計が数値の処理上100にならない場合があります。

ESD推進ネットワーク形成の進展

地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)、全国8カ所の地方ESD活動支援センター(地方センター)、ESD活動支援センター(全国センター)の連携・協力によるESD推進ネットワークの体制の基盤整備が大きく進展しています。



*持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議：ESDにかかわる施策の実施について、関係行政機関相互間の密接な連携を図り、総合的かつ効果的な推進を図るために開催。2022年2月時点で、12省庁が参画:文部科学省、環境省、内閣官房、内閣府、消費者庁、総務省、外務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、法務省、厚生労働省。

SDGs達成を目指す ESD推進ネットワーク

ESD推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様な主体が、分野横断的に、協働・連携してESDを推進することを目的としています。

ESDを広げ、深めることを通じて、地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs達成に向けての人づくりを行います。

持続可能な社会を目指して



持続可能な開発目標 (SDGs)

● 地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)

地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することでESD推進ネットワークの中で中核的な役割を果たす、地域におけるESD活動の支援窓口です。
先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、ESD活動を支援している組織・団体に地域ESD拠点として登録していただき、学校教育や社会教育の現場で、地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組む様々な主体の活動を支援・推進していただくことが期待されています。

● 地方ESD活動支援センター(地方センター)

全国8ブロックに開設され、全国センターや地方自治体、地域ESD拠点等との連携の下に、主に以下の機能を果たすことで、ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。
①ESD活動を支援する情報共有機能
②現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
③ESD活動のネットワーク形成機能
④人材育成機能、等
各地方センターには指導・助言機関が設けられています。

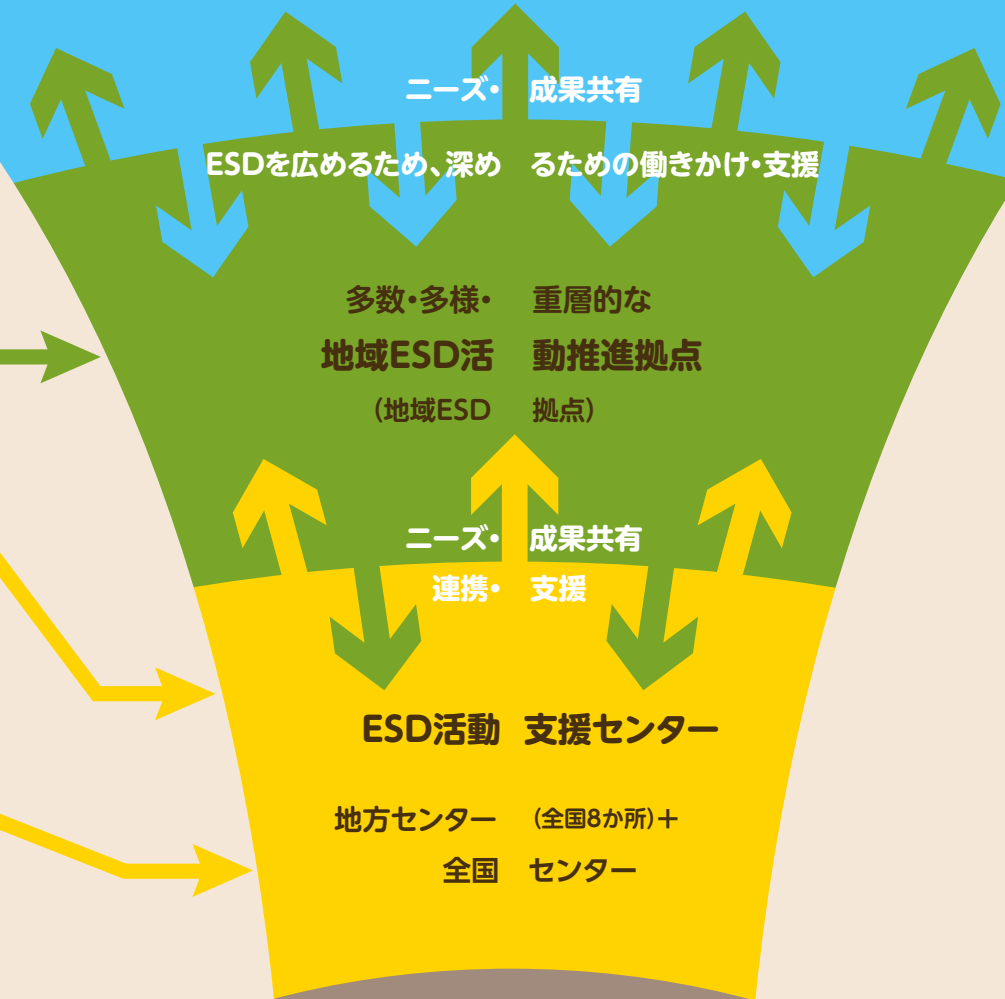
● ESD活動支援センター(全国センター)

ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行います。ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向を議論するESD活動支援企画運営委員会の指導・助言を受けて、地域ESD拠点、地方センターやESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。

● 協力団体

ESD推進に取り組む全国規模のネットワーク組織・団体です。

学校、地域、職場などで
ESDに取り組んでいる多様な実践主体
(ESD活動の現場)
ESDに取り組もうとしている多様な主体
(潜在的な活動主体)



● SDGs:持続可能な開発目標

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この中で、発展途上国・先進国が共に取り組む2016年から2030年までの国際的な目標として、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」が示されています。

● SDGsとESD

SDGsの目標4(教育)の第7項目には、ESD等を通じて全ての学習者が持続可能な開発の促進に必要な知識とスキルを習得できるようにするという目標が書かれています。
一方、「ESDは全てのSDGsの実現の鍵である」と2017年の国連決議に記されたように、ESDは、持続可能な社会づくりの担い手の育成を通じ、SDGs達成のための意識・行動の変容をもたらす学びとして、SDGsの17の全ての目標の達成に貢献するものとされています。



図は「今日よりいいアースへの学び 持続可能な開発のための教育(ESD)の更なる推進に向けて～学校等でESDを実践されている皆様へ～」(2017(平成29)年9月、日本ユネスコ国内委員会教育小委員会)から作成しました。



地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)

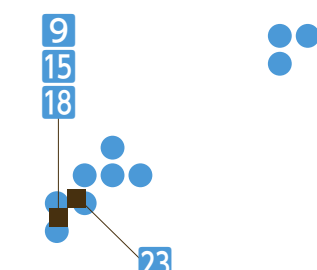
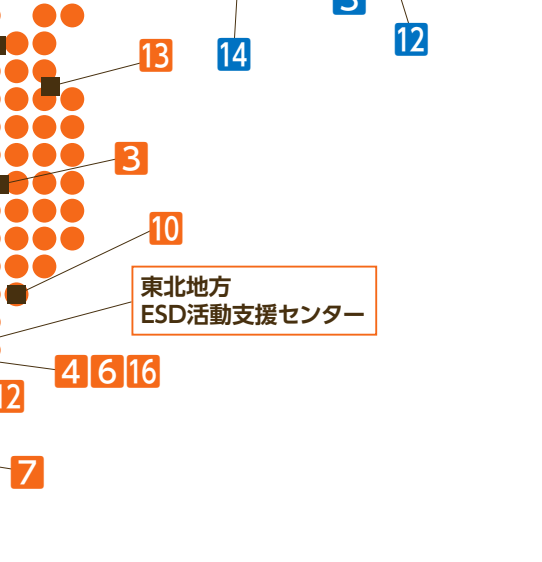
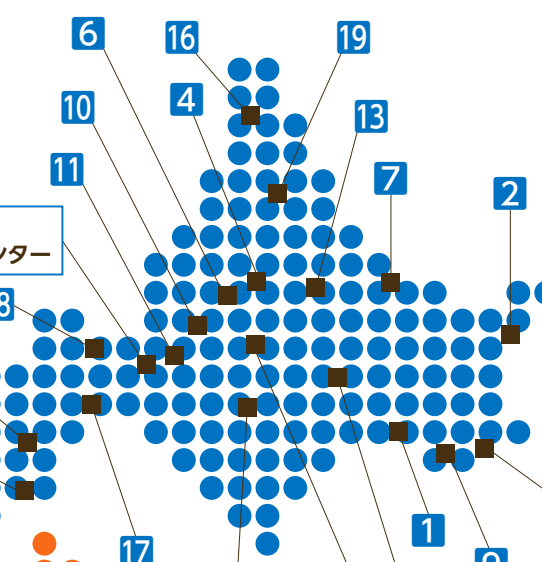
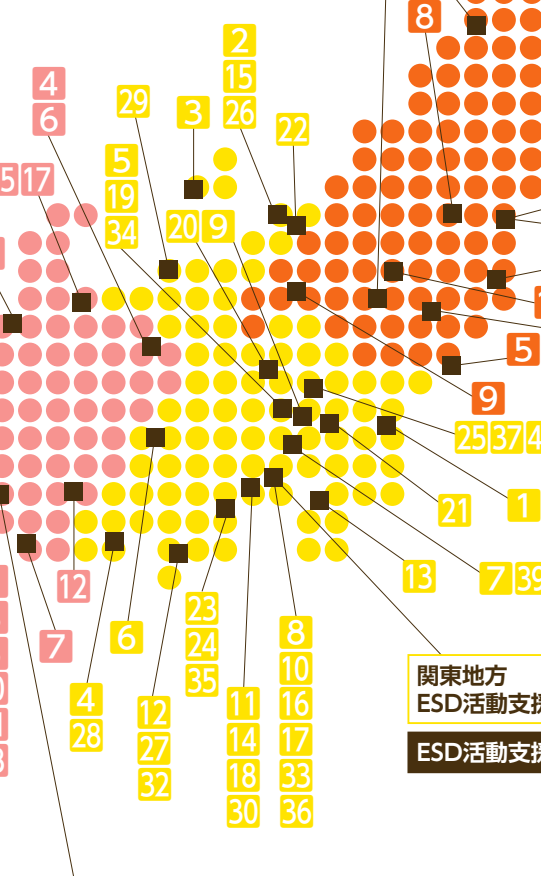
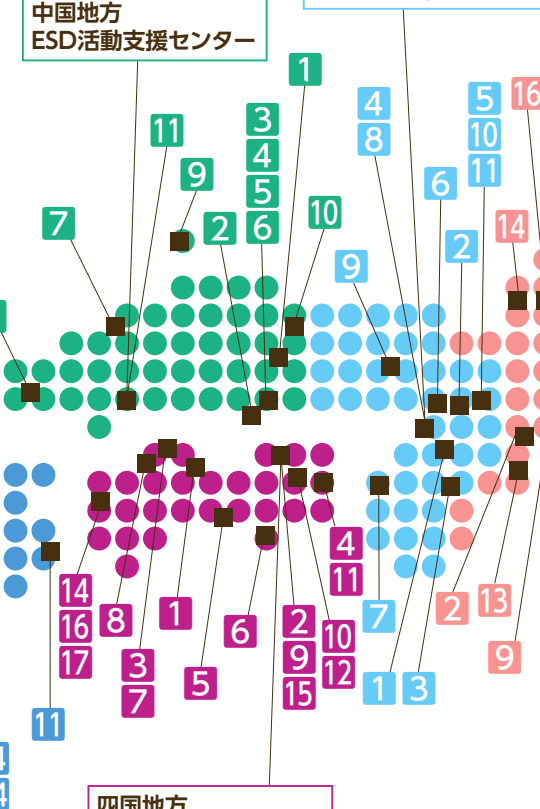
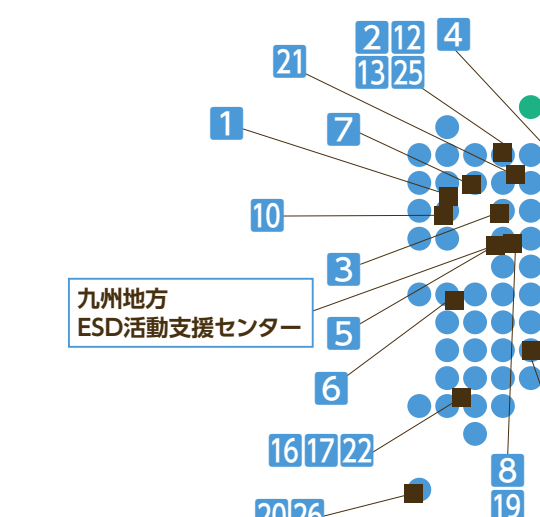
地域・社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいる学校や社会教育現場の様々な主体に対して地域におけるESD活動の支援窓口としての役割を担っていただく地域ESD拠点の登録を、ESD活動を実践・推進・支援している組織・団体の協力を得て、進めています。

登録は、2017年11月に開始され、2022年2月末現在、教育委員会、社会教育機関、学術研究機関、企業、NGO/NPO、公益法人等多様なセクターから全ての都道府県で合計158団体が登録されています。

九州01	鹿島市建設環境部 ラムサール条約推進室	佐賀県
九州02	国立大学法人 福岡教育大学	福岡県
九州03	大牟田市教育委員会	福岡県
九州04	北九州ESD協議会	福岡県
九州05	公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金	熊本県
九州06	一般社団法人 環不知火プランニング	熊本県
九州07	認定NPO法人 地球市民の会	佐賀県
九州08	公益財団法人 再春館一本の木財団	熊本県
九州09	一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会	沖縄県
九州10	国立諫早青少年自然の家	長崎県
九州11	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム附属はぎこネイチャーセンター	大分県
九州12	NPO法人 NGO福岡ネットワーク	福岡県
九州13	国立大学法人九州大学 水素エネルギー国際研究センター	福岡県
九州14	宮崎県環境情報センター	宮崎県
九州15	NPO法人 おきなわ環境クラブ(OEC)	沖縄県
九州16	くすの木自然館	鹿児島県
九州17	そのまほいくえん	鹿児島県
九州18	一般社団法人 沖縄県婦人連合会	沖縄県
九州19	国立阿蘇青少年交流の家	熊本県
九州20	屋久島環境文化研修センター(公益財団法人屋久島環境文化財団)	鹿児島県
九州21	国立夜須高原青少年自然の家	福岡県
九州22	一般財団法人 鹿児島県環境技術協会	鹿児島県
九州23	NPO法人 Okinawa Hands-On NPO	沖縄県
九州24	学校法人宮崎学園	宮崎県
九州25	一般社団法人まほろば自然学校	福岡県
九州26	特定非営利活動法人HUB&LABO Yakushima	鹿児島県

中国01	津山圏域グリーンセンターリサイクルプラザ	岡山県
中国02	公益財団法人 水島地域環境再生財団	岡山県
中国03	岡山市京山地区ESD推進協議会	岡山県
中国04	藤グリーン 株式会社	岡山県
中国05	岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会	岡山県
中国06	公益財団法人 岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」	岡山県
中国07	島根県立しまね海洋館 アクアス	島根県
中国08	公益財団法人 山口県ひとづくり財団 環境学習推進センター	山口県
中国09	NPO法人 隠岐しぜんむら	島根県
中国10	NPO法人 ECOフューチャーとっとり	鳥取県
中国11	NPO法人 ひろしまNPOセンター	広島県

近畿地方 ESD活動支援センター	1
中国地方 ESD活動支援センター	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
九州地方 ESD活動支援センター	12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40
四国地方 ESD活動支援センター	41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49
中部地方 ESD活動支援センター	50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158
北海道地方 ESD活動支援センター	159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200
東北地方 ESD活動支援センター	201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300
関東地方 ESD活動支援センター	301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400



四国01	新居浜市教育委員会	愛媛県
四国02	高松ユネスコ協会	香川県
四国03	IKEUCHI ORGANIC 株式会社	愛媛県
四国04	株式会社 ハレルヤ	徳島県
四国05	株式会社 土佐山田ショッピングセンター	高知県
四国06	室戸ジオパーク推進協議会	高知県
四国07	株式会社平野 平野薬局	愛媛県
四国08	NPO法人 えひめグローバルネットワーク	愛媛県
四国09	うどんまるごと循環プロジェクト	香川県

四国10	一般社団法人 そらの郷	徳島県
四国11	パンダフィールド	徳島県
四国12	株式会社 井上組	徳島県
四国13	株式会社 相愛	高知県
四国14	一般社団法人 ノヤマカンパニー	愛媛県
四国15	普通寺こどもエコクラブ	香川県
四国16	NPO法人 どんぐり王国	愛媛県
四国17	えひめ森林公園	愛媛県

北海道01	北海道教育大学釧路校ESD推進センター	北海道(道東)
北海道02	羅臼町教育委員会	北海道(道東)
北海道03	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家	北海道(道北)
北海道04	NPO法人 旭川NPOサポートセンター	北海道(道北)
北海道05	一般財団法人 北海道国際交流センター(HIF)	北海道(道南)
北海道06	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル深川	北海道(道央)
北海道07	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル北見	北海道(道東)
北海道08	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル森	北海道(道南)
北海道09	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル厚岸	北海道(道東)
北海道10	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル砂川	北海道(道央)
北海道11	三笠ジオパーク推進協議会	北海道(道央)
北海道12	北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル定奇	北海道(道東)
北海道13	白滝ジオパーク	北海道(道東)
北海道14	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立日高青少年自然の家	北海道(道央)
北海道15	認定NPO法人 霧多布温泉ナショナルトラスト	北海道(道東)
北海道16	認定NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	北海道(道北)
北海道17	NPO法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	北海道(道央)
北海道18	NPO法人 北海道エコビレッジ推進プロジェクト	北海道(道東)
北海道19	北海道名寄産業高等学校 名寄キャンパス	北海道(道北)

東北01	NPO法人 青森県環境パートナーシップセンター	青森県
東北02	一般社団法人 あきた地球環境会議(CEEA)	秋田県
東北03	NPO法人 環境パートナーシップいわて	岩手県
東北04	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)	宮城県
東北05	独立行政法人 国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校	福島県
東北06	公益社団法人 仙台ユネスコ協会	宮城県
東北07	NPO法人 うつくしまNPOネットワーク	福島県
東北08	NPO法人 環境ネットやまがた	山形県
東北09	只見町教育委員会	福島県
東北10	気仙沼ESD/RCE推進委員会	宮城県
東北11	金澤ユネスコ協会	福島県
東北12	いわきユネスコ協会	福島県
東北13	八戸工大二高・附属中学校	青森県
東北14	認定NPO法人 環境あきた県民フォーラム	秋田県
東北15	国立須賀甲子青少年自然の家	福島県
東北16	一般社団法人日本キリバス協会	宮城県

関東01	認定NPO法人 茨城NPOセンター・ commons	茨城県
関東02	学校法人 日本自然環境専門学校	新潟県
関東03	公益財団法人 鼓童文化財団	新潟県
関東04	NPO法人 アースライフネットワーク	静岡県
関東05	チャウス自然体験学校(NPO法人 チャウス)	群馬県
関東06	公益財団法人 キーブ協会	山梨県
関東07	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県
関東08	立教大学ESD研究所	東京都
関東09	NPO法人 エコロジーオンライン	栃木県
関東10	一般社団法人 新宿ユネスコ協会	東京都
関東11	成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	東京都
関東12	伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会	静岡県
関東13	NPO法人 環境パートナーシップちば(NPO環パちば)	千葉県
関東14	多摩大学 アクティブ・ラーニング支援センター	東京都
関東15	新潟市水族館マリニピア日本海	新潟県
関東16	NPO法人 新宿環境活動ネット	東京都
関東17	聖心女子大学グローバル共生研究所	東京都
関東18	兎華学園中学校高等学校	東京都
関東19	サンデンフォレスト(サンデンファシリティー株式会社)	群馬県
関東20	一般社団法人 きりゅう市民活動推進ネットワーク	群馬県
関東21	キャンパコテクノパーク	茨城県
関東22	一般社団法人 あがのがわ環境学舎	新潟県
関東23	認定NPO法人 アクト川崎	神奈川県
関東24	NPO法人 横浜市民アクト	神奈川県
関東25	栃木県環境カウンセラー協会	栃木県
関東26	一般社団法人 新潟市ユネスコ協会	新潟県
関東27	一般社団法人 自然エネルギー推進機構	静岡県
関東28	ふじのくに未来財団	静岡県
関東29	フォッサマグナミュージアム	新潟県
関東30	一般社団法人 ESD TOKYO	東京都
関東31	藤岡市ボランティアネットワークセンター ウィズ	群馬県
関東32	VISIONARY INSTITUTE	静岡県
関東33	特定非営利活動法人 持続可能な社会をつくる元気ネット	東京都
関東34	上州くまみESD実践研究会	群馬県
関東35	かわさき環境教育学習プロジェクト	神奈川県
関東36	渋谷川ルネッサンス	東京都
関東37	一般社団法人 社会デザイン協会	栃木県

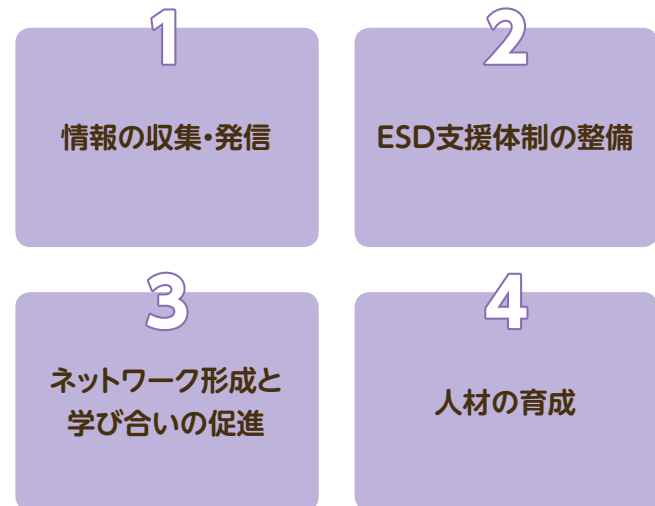
近畿01	近畿ESDコンソーシアム	奈良県
近畿02	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協議会	京都府
近畿03	森と水の源流館(公益財団法人 吉野川紀の川源流物語)	奈良県
近畿04	NPO法人 大阪環境カウンセラー協会	大阪府
近畿05	公益財団法人 淡海環境保全財団	滋賀県
近畿06	真面ユネスコ協会	大阪府
近畿07	花王エコマミュージアム	和歌山県
近畿08	農林水産省 林野庁 近畿中国森林管理局 森林整備部	大阪府
近畿09	NPO法人 バイオマス丹波産	兵庫県
近畿10	NPO法人 愛のまちエコ倶楽部(あいとうエコプラザ菜の花館)	滋賀県
近畿11	やまこ(山内エコクラブ)	滋賀県

ESD活動支援センター (全国センター)の役割

ESD推進ネットワークの全国的なハブとして

ESD活動支援センター(全国センター)は、ESD推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行います。地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)、地方ESD活動支援センター(地方センター)やESDの推進に関心を持つ全国の協力団体と協働・連携し、支援活動を展開します。全国センターは、以下の4つの「はたらき」と3つの「つなぐ」機能を果たすことでESDの広まり、深まりに貢献しています。

4つの「はたらき」



3つの「つなぐ」

- 1 環境・開発・人権・平和・防災・消費・文化などの多様なテーマをつなぎます。
- 2 ESDを推進・支援する人・組織・プログラムなどを地域をこえてつなぎます。
- 3 国連機関や海外のESD先進地域の動きなど国際的な情報をつなぎます。

ESD活動支援企画運営委員会

ESD推進ネットワーク全体の活動の基本的方向の議論、地域の実情を踏まえた総合的なESD活動支援方策の検討、全国センターへの指導・助言を行います。

●ESD活動支援企画運営委員会委員

石田 好広	目白大学人間学部児童教育学科 教授
梅田 幸重	勝山市教育委員会 教育長
及川 幸彦	東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員
佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
島田 幸子	関東ESD活動支援センター コーディネーター
進藤 由美	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 国際交流部/総務部 部長
鈴木 啓介	公益財団法人五井平和財団 青少年教育担当
棚橋 乾	全国小中学校環境教育研究会 顧問
松葉口 玲子	横浜国立大学教育学部 教授
見上 一幸	公益社団法人仙台ユネスコ協会 会長
山村 宜之	むさしのエコレポート ディレクター

(敬称略、五十音順)

各回の議論の概要と配布資料は、ESD活動支援センター(全国センター)のウェブサイトで公開しています。また、全ての地方ESD活動支援センターにも企画運営委員会または運営委員会が設置されています。

可視化タスクフォース

可視化タスクフォースはESD推進ネットワークの可視化について検討を行います。可視化の目的は、ESD推進ネットワークの経年的な質的变化、量的変化を明らかにすることにより、ネットワークの現況を把握するとともに、関係主体の取組の改善を図ることです。

●可視化タスクフォース委員

久保田 学	北海道地方ESD活動支援センター
佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
広石 拓司	株式会社エンパブリック 代表取締役
松原 裕樹	中国地方ESD活動支援センター

(敬称略、五十音順)

ESD活動支援センター公式 ウェブサイト

コンセプト

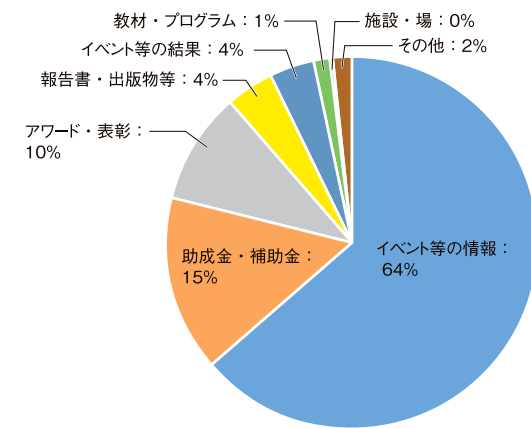
「仲間を増やすウェブサイト、仲間の力をつけるウェブサイト」を目指し、他のウェブサイトへの有効なポータル(入り口)として機能するコンテンツづくりに努めています。また、SNS等と連動して情報を一元的に発信しESDの魅力を伝える・ESD関係者を増やすツールにしたいと考えています。

目指している「役割」

- 1 ESDを実践する方に役立つ情報の発信による、ESDの活性化
- 2 「ESD」のフレーズを用いている情報の一元化、整理、蓄積と発信
- 3 「ESD」のフレーズを用いていないESD関連情報の洗い出しと統合

情報掲載内訳

今年度も、地域ESD拠点やESD推進団体等から寄せられる多数の情報を発信し、広報・ESDの成果共有に努めました。全国センターのウェブサイトに掲載した記事のカテゴリ別内訳は以下の通りです。



相談対応

ESD活動を実践するに当たっての相談や支援依頼などを受け付けています。ネットワークの強みを活かし研修・セミナーの企画支援や講師の紹介、広報協力など様々な相談に対応しました。



ESD活動支援センター



後援等による事業協力

ESD活動支援センター(全国センター)と地方ESD活動支援センター(地方センター)はESDの推進に資する行事や催しへの共催・後援・協力等を行っています。後援名義の使用申請は全国センターで一括して受け付けており、2021年度は41件の開催事に対して後援名義の使用を承認しました。



▲後援したイベントの例

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021

ESD for 2030のキックオフ

～脱炭素社会づくりに向けたESD推進ネットワークの役割～

ESD推進ネットワーク全国フォーラム(以下「全国フォーラム」)は、毎年1回、ESDに関心のある方々が集い、ESDに関する最新の国内外の動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、全国各地の実践事例を学び合うもので、ESD活動の更なる普及とより一層の活動推進を目的に開催しています。2021年は、新たな国内実施計画の策定、脱炭素の取り組み加速などの社会の動きを踏まえ、様々な立場でESDを実践・推進してきた方々が、これまでの取り組みをふりかえるとともにネットワークの今後の方向性について意見交換を行いました。

昨年度に引き続き完全にオンラインでの開催となりましたが、全国各地から延べ478名の方がご参加くださいました。

開催目的

- 1 国内外の動向を踏まえてネットワークのビジョンと中期的なゴールを話し合う。
- 2 社会変革を担う人材育成のための具体的なアクションについて議論する。
- 3 ESD活動支援センターがESD実践の多様な事例を共有し、各地に展開していくためのポイント・戦略を考える。
- 4 多様な主体・地域・世代をつなぎ、ネットワークのさらなる発展の機会とする。

開催概要

- 主催 ESD活動支援センター 文部科学省 環境省
- 協力 地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点) 全国規模のESD推進組織・団体
- 参加者 延べ478名

プログラム概要

- 1 開会挨拶
- 2 基調報告

①2030に向けたESDの推進

●河村 裕美さん
(文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官)

ベルリン宣言が採択されたESD世界会議、ユネスコ総会などの国際的な動向、第2期ESD国内実施計画策定を受けたユネスコスクールをはじめとする学校でのESD推進の取組、多様な主体が参画するSDGs達成の担い手育成推進事業、国内ユネスコ活動拠点の戦略的な整備を進めるユネスコ未来共創プラットフォーム事業などが紹介されました。

②地域脱炭素に貢献するESD推進を通じた人材育成

●浅原 堅祐さん
(環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 企画官)

脱炭素社会、循環経済、分散型社会への「3つの移行」による経済社会のリデザインとSDGs実現に向けて進める地域循環共生圏の取組や、脱炭素に向けた取組の中核を担う地域脱炭素ロードマップのコンセプトが紹介されました。同ロードマップや2021年10月に改訂された地球温暖化対策計画にはESDを推進することが明記されています。その中心的な役割を果たすESD推進ネットワークへの期待が表明されました。

◆ パネルディスカッション 「脱炭素時代に求められるESDネットワークの姿とは」

様々な領域におけるこれまでのESDの取組の成果と課題についてパネリストから報告をいただいた後、これからの社会に求められる人材像、ESDネットワークの姿について議論しました。個人の能力としてありたい社会を描く力や社会的寛容性、ネットワークとしては多世代による学び合いやネットワーク同士の有機的・複合的なつながりの重要性が指摘されました。



パネリスト

- 飯田 貴也さん (NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事)
- 白井 信雄さん (山陽学園大学 教授)
- 進藤 由美さん (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際交流部長)
- 関 正雄さん (損害保険ジャパン株式会社 サステナビリティ推進部シニアアドバイザー)
- 服部 乃利子さん (静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター次長)

モデレーター

- 佐藤 真久さん (東京都市大学大学院 教授)

◆ 分科会 —「ESD for 2030学び合いプロジェクト」の挑戦—

① 脱炭素社会づくりとESD ～気候変動教育と、拠点の学び合い～

脱炭素社会の実現とその社会を担う人材の育成に向けて、学び合いプロジェクトを通して得られた成果等の共有を行いました。また、参加者を交えて脱炭素社会を切り口にした学びのポイントや仕組みづくり等について意見交換し、ESDネットワークを推進していくうえでの課題を探りました。



担当地方センター (進行)

- 北海道センター・近畿センター

パネリスト

- 高橋 敬子さん (立教大学ESD研究所 特任研究員)
- 福岡 真理子さん (一般社団法人あきた地球環境会議 理事・事務局長)
- 吉田 美和さん (京都市立紫明小学校 教諭)
- 南 哲朗さん (奈良町資料館 館長)

コーディネーター

- 中澤 静男さん (奈良教育大学 准教授)

② SDGsを活用した教育×地域のチャレンジ

地域の主体と学校が連携してSDGsを活用した教育にチャレンジしている事例を紹介し、地域と学校のつながりを今後のESD推進ネットワークにどのように活かしていけるのかについて意見交換しました。



担当地方センター

- 東北センター・中国センター・九州センター

パネリスト

- 内藤 恵子さん (公益社団法人仙台ユネスコ協会 副会長)
- 角 俊一さん (島根県環境生活部環境政策課 企画員)
- 岡 裕二さん (熊本市立城南中学校 地域コーディネーター)

コメンテーター

- 見上 一幸さん (東北地方ESD活動支援センター 企画運営委員長)

コーディネーター

- 鈴木 美紀子さん (東北地方ESD活動支援センター)

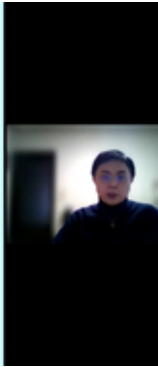
③ 地域に根ざした多様なSDGs人材育成

地域の中で人々の行動変容をいかにして起こしていくかという課題に対し、様々なアプローチで取り組んできた各

地の学び合いプロジェクトの成果を共有し、SDGsの担い手づくりに向けたESD推進ネットワークの今後の方向性について議論しました。

学び合いセミナー・実践セミナーの成果
ローカルSDGsの担い手育成のポイント

- ① 課題解決型の地域づくりがテーマ
- ② 地域の課題解決⇒ローカルSDGsを実現する
- ③ 世代を超えて互いを尊重し、話し合う
- ④ 気づき、そこから課題解決の方法を築いていく
- ⑤ こうした学び合いの場がESD
- ⑥ 担い手としてめざす人材像が明確にある
- ⑦ 人材育成の評価の視点と手法を持つ



担当地方センター（進行）

関東センター・中部センター・四国センター

パネリスト

- 建元 喜寿さん(筑波大学附属坂戸高等学校 教諭)
- 水上 聡子さん(アルマス・バイオコスモス研究所 代表)
- 松浦 英人さん(一般社団法人そらの郷 課長)

コーディネーター

堺 勇人さん
(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま事務局)

◆ 全体総括
「2030年に向けてESD推進ネットワークが
取り組みたいこと」

コメントーター

及川 幸彦さん
(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター
主幹研究員)

報告者

服部 乃利子さん (パネルディスカッション)
高橋 敬子さん (分科会)

進行

広石 拓司さん
(株式会社エンパブリック 代表取締役)



パネルディスカッション、分科会の概要報告の後、コメントーターを交えてディスカッションを行いました。これまでに実施された様々な取組のプロセスから学ぶこと、息の長い取組を積み重ねながら主体や課題などのつながりを広げていくことの大切さが確認されました。

◆ 閉会挨拶

●バーチャル・ポスターセッション

地域ESD推進拠点、全国規模のESD推進団体など各団体の取組を紹介する「バーチャル・ポスターセッション」のページを設置、フォーラム終了後の1月28日までオープンし多くの方々にご覧いただきました。

出展団体(順不同)

●地域ESD拠点

1. 成蹊大学サステナビリティ教育研究センター
2. NPO法人大阪環境カウンセラー協会
3. NPO法人NGO福岡ネットワーク
4. NPO法人環境パートナーシップちば
5. (公財)京都市環境保全活動推進協会
6. 奈良教育大学 近畿ESDコンソーシアム
7. VISIONARY INSTITUTE
8. NPO法人横浜市民アクト
9. (一社)そらの郷
10. (一社)環不知火プランニング

●協力団体

1. NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)
2. (公財)ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
3. (独法)国立女性教育会館 (NVEC)
4. (公社)日本ユネスコ協会連盟
5. (公財)日本環境協会

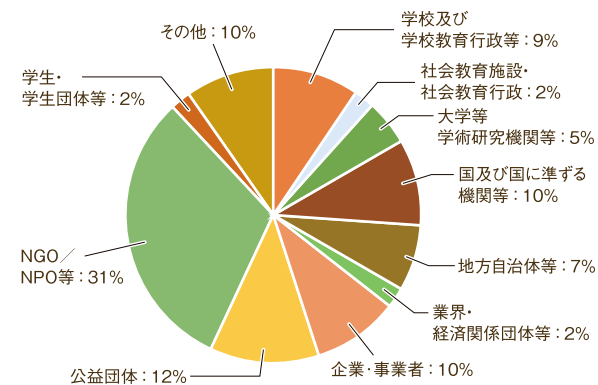
●その他

1. 厚木市議会・横浜国立大学大学院

全国フォーラム2021アンケートより (回答者42名)

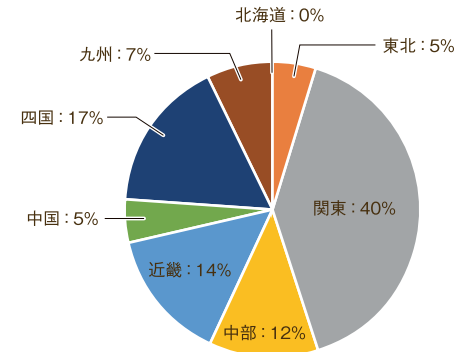
●参加者の立場

NGO/NPO等(31%)が最も多く、公益団体(12%)が続いています。多様な主体の参加が得られています。



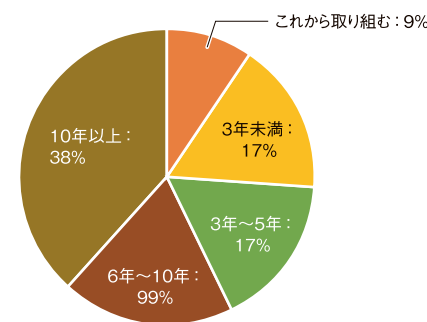
●参加者の地域別割合

関東からの参加が多い傾向は続いていますが、初のオンライン開催となった昨年度に続き、遠方からも一定数の参加が得られました。



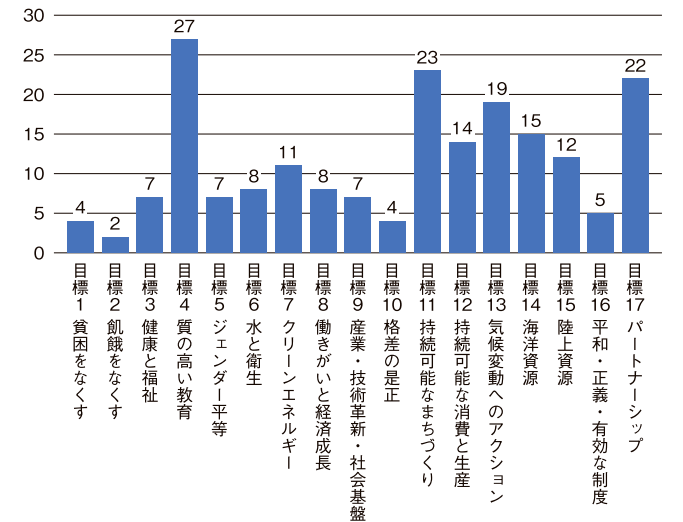
参加者の活動歴

10年以上ESDに関する活動をしている参加者が4割弱と多数を占めましたが、経験の浅い、あるいは未経験の方々も一定程度参加されています。



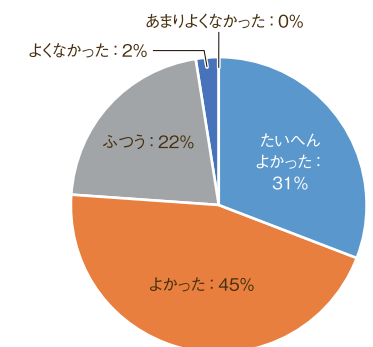
●SDGsの取組状況(複数回答)

SDGs4(教育)が最も多く、SDGs11(まちづくり)、SDGs17(パートナーシップ)が続いています。また、SDGs(気候変動)、SDGs14,15(自然資源・生物多様性)、SDGs12(持続可能な消費・生産)など、環境に関連する取組も多くなっています。



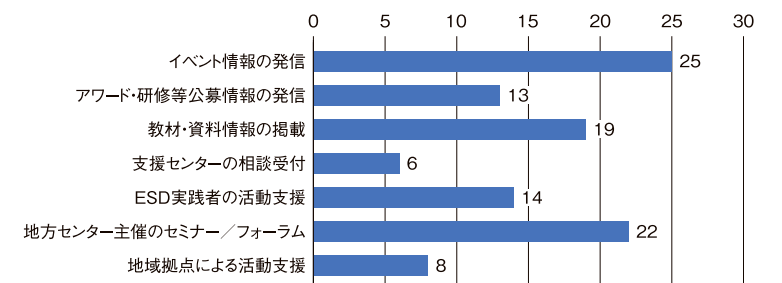
●フォーラム全体の評価

昨年度に続いてのオンライン開催となりましたが、多くの参加者から高い評価をいただきました。



●ネットワークが役立っている点

情報発信や地方センターが開催するイベントという意見が多く寄せられました。情報発信や知見の提供という部分で、ESD推進ネットワークの有用性が認知されつつあります。



ESD for 2030 学び合いプロジェクト

ESD推進ネットワークでは、新たな活動として「ESD for 2030学び合いプロジェクト」を開始しました。2021年5月に策定された第2期ESD国内実施計画に位置付けられた「テーマ別の学び合いの仕組み」で、特定のテーマや課題に関心を有する様々な主体が地域を越えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の取り組みを全国に広めていくことを目的としています。今年度は、全国8カ所の地方ESD活動支援センターが、地域の課題や各センターの強みを考慮してテーマを設定しプロジェクトを運営しました。それぞれのプロジェクトの概要をご紹介します。

●北海道センター

「気候変動教育の確立・普及に向けた情報共有・対話の促進」

気候変動教育に関わる組織や人材が相互に情報を共有し、事例研究に基づく対話を通して知見を深めるとともに、我が国における気候変動教育の本格的な展開に向けた体系化や地域での普及戦略づくりを目的として、国内外の動向や国内の先導的教育事例に関する連続勉強会を開催しました。



●東北センター

「地域の素材から考えるESD/SDGs教育の可能性」

地域の素材や地域課題をテーマにしたESDプログラムの実践事例や、地域ESD推進拠点による地域・学校・地方ESDセンター等の連携事例から、ESD活動の充実に向けた学び合いを実施しました。



●関東センター

「自然体験を通じて、生活に関わるSDGsを学ぶ」

畑での自然体験活動を通じて、「食」と、「生ごみ削減」の大切さに気づき、実践する人が増えることを目的とし、行動変容につながるような効果的なプログラムを参加者とともに考え、実践しました。



●中部センター

「ローカルSDGsのためのESDの社会実装」

ローカルSDGsのためのひとつづくりを目指し、社会ESDのあり方について各地の「社会現場」の事例をもとに専門家

研究会や一般の勉強会等で研究・理解を深め、モデル事例として海ごみに関する実践セミナーを開催しました。



●近畿センター

「脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの向上」

地域ESD拠点等がもつ専門的な資源を活かして、脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの創出を目指しました。講師を交えた参加者同士の学び合いにより提案プログラムの質の向上を図り、中学生を対象に環境学習施設の来館者向けESDプログラムとして実践を行いました。



●中国センター

「脱炭素社会に貢献する学校断熱のSDGs探究学習プロジェクト」

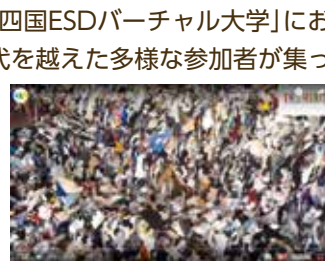
高等学校校舎の断熱改修を素材に、身近な問題に気づき→解決に向けて行動し→その効果を可視化する、というプロセスを体系化した探究学習プログラムを作成し、地域の多様な主体とともに実践しました。



●四国センター

「消費者教育の推進と社会変容～ジェンダーの視点&エネルギーシフトの視点～」

オンラインでの学びの場「四国ESDバーチャル大学」において、衣食住をテーマに世代を越えた多様な参加者が集っての勉強会を開催し、日々の消費行動がもたらす経済・社会・環境への影響について考えました。



●九州センター

「中学校におけるSDGsを活用したキャリア教育」

公立中学校におけるSDGsの視点を取り入れたキャリア教育カリキュラム構築に向け、熊本市の中学校と連携し、教員等との勉強会、全校生徒向けのSDGs授業、教員や地域ESD拠点を対象とした研修などを行いました。



地方ESD活動支援センター(地方センター)連絡先

北海道地方 ESD活動支援センター

住所 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西5-11 大五ビル7階
TEL 011 (596) 0921 E-mail inf@hokkaido-esdcenter.jp
担当都道府県 北海道

東北地方 ESD活動支援センター

住所 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1階
TEL 022 (393) 9615 E-mail info@tohoku-esdcenter.jp
担当都道府県 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東地方 ESD活動支援センター

住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山地下1階
TEL 03 (6427) 7975 E-mail kanto@kanto-esdcenter.jp
担当都道府県 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、静岡

中部地方 ESD活動支援センター

住所 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4階
TEL 052 (218) 9073 E-mail office@chubuesdcenter.jp
担当都道府県 富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重

近畿地方 ESD活動支援センター

住所 〒540-6591 大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMM5階
TEL 06 (6948) 5866 E-mail office@kinki-esdcenter.jp
担当都道府県 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国地方 ESD活動支援センター

住所 〒730-0011 広島県広島市中区基町11-10 合人社広島紙屋町ビル5階
TEL 082 (555) 2278 E-mail cgesdc@chugoku-esdcenter.jp
担当都道府県 鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国地方 ESD活動支援センター

住所 〒760-0023 香川県高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館3階
TEL 087 (823) 7181 E-mail info@shikoku-esdcenter.jp
担当都道府県 徳島、香川、愛媛、高知

九州地方 ESD活動支援センター

住所 〒860-0806 熊本県熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2階
TEL 096 (223) 7422 E-mail contact@kyushu-esdcenter.jp
担当都道府県 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

ESD活動支援センター(全国センター)連絡先等

連絡先

住所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山 地下1階
TEL 03 (6427) 9112 E-mail contact@esdcenter.jp URL https://esdcenter.jp

アクセス



- 東京メトロ 銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」B2出口から徒歩約10分
- JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線「渋谷駅」東口(宮益坂口)から徒歩約12分
- 都営バス(渋谷88系統)「青山学院前」停留所から徒歩約2分
- ★青山通りから国際連合大学とオーバルビルの間の道に入り、東京ウィメンズプラザの前のエスカレーターで地下1階までお越しください。